

なるほど!歴史講座 シリーズ

「大正浪漫」

presented by 石川 恵悟

<本日のフローチャート>

1. 大正浪漫とは

- (1) 年表で見る大正社会
- (2) 明治との対比



2. 大正時代の女性・男性

- (1) 新しい女
- (2) 大正期青年の5分類



3. 社会の変化

- (1) 都市の消費文化
- (2) コミュニケーション文化産業



4. タテ軸（歴史）とヨコ軸（国際情勢）



まとめ



1. 大正浪漫とは



- ・ 大正時代の日本社会の風潮を指す言葉。
 - ・ 大正時代の日本は都市化や大衆化が進む中で、個性や自由が尊重されるようになり、街や生活様式が西洋化・近代化していった。
- ※「浪漫」の当て字は夏目漱石による（「適當の訳字がないために私が作って浪漫主義として置きました」『教育と文芸』）。

(1) 年表で見る大正社会

大正元年（1912）	千疋屋 新橋に開店 ジャムとバターでパンを食べる習慣が広がる 女学校に制服広がる タクシー登場
大正2年（1913）	平塚らいてう「自分は新しい女である」を発表 文部省 反良妻賢母主義的婦人論の取り締まりに乗り出す 神田での大火を機に書店街が形成される 小林一三 宝塚唱歌隊を設立 森永製菓 ミルクキャラメルを発売 千疋屋 食堂部を「フルーツパーラー」と名づける 小学校の体操にドッジボール採用 東北帝国大学に初めて女子が入学 たばこを吸う子どもが激増 ピアノが流行 化粧品の広告活発に 佐久間ドロップ発売
大正3年（1914）	東京大正博覧会開催、エスカレーターが登場 読売新聞、「身の上相談」欄を開始 三越呉服店、百貨店に衣替え 講談社『少年倶楽部』創刊 ライオンコドモハミガキ発売 東京駅開業、丸の内が一大ビジネス街に



	学生にマント流行	
大正 4 年 (1915)	シャープペンシル誕生 小学校の就業率がほぼ 100%に 東芝 日本初の電気アイロンを発売 銀ブラが流行語に カフェ女給の白エプロン始まる 「今日は帝劇、明日は三越」	
大正 5 年 (1916)	竹久夢二が人気に 『婦人公論』創刊 エイプリル・フールが流行り始める 「大正デモクラシー」が流行語に カゴメケチャップ発売	
大正 6 年 (1917)	『主婦之友』創刊 東京の子は地方より体格が劣ると問題化	
大正 7 年 (1918)	『赤い鳥』創刊	
大正 8 年 (1919)	カルピス発売 “初恋の味” 「サボタージュ」報道から「サボる」という動詞が誕生 パンが大人気に セーラー服登場 『キネマ旬報』創刊	
大正 9 年 (1920)	阪急梅田駅にターミナルデパート誕生 第一回国勢調査の実施 メンソレータム発売	
大正 10 年 (1921)	早大生 カツ丼を考案	
大正 11 年 (1922)	三大洋食カレー・コロッケ・トンカツが広がる 札幌ラーメンの始まり 『週刊朝日』『サンデー毎日』創刊→週刊誌時代の幕開け 資生堂 美容科・美顔科・洋装科を設置 サンガー夫人来日 グリコ発売	

	小学館創立	
大正 12 年 (1923)	丸の内ビルディング完成、ビル内に初の美容院誕生 千疋屋の看板メニュー フルーツポンチ誕生 『アサヒグラフ』創刊 北澤秀一「モダンガール」の言葉を使用 菊池寛『文藝春秋』創刊 帝国ホテル新築開業 三越で日本初のバーゲンセール	
大正 13 年 (1924)	「指が太くなる」と家事嫌いの女子が増える 日本で初めてベートーベンの第九が演奏される 約 1 万人の小学生が貧乏で進学できず 荻野久作 オギノ式避妊法を発表 阪神甲子園球場完成 アッパッパ流行	
大正 14 年 (1925)	オムライス誕生 キューピーマヨネーズ発売 『キング』創刊 (74 万部) 都市でダンス、麻雀が流行 名古屋で味噌煮込みうどん考案 有名美容院に弟子入りしたいと家出する少女が急増 駄菓子屋で子ども向けのくじが流行 銀座に松屋呉服店開店 普通選挙法施行 ラジオ放送開始、女性アナウンサー採用 明治ミルクチョコレート発売 浅田飴発売 雪印バター発売	
昭和元年 (1926)	女子の洋装、心齋橋通りで 1%、銀座で 4% 円本ブーム 明治神宮球場完成	

※大正天皇は 1912 年 (明治 45 年) 7 月 30 日即位、1926 年 (大正 15 年) 12 月 25 日崩御。

(2) 明治との対比

- ・ 明治と大正を区別するものとしてあげられるものは、前者の富国強兵、殖産興業的な「文明」であり、後者の（ ）主義、（ ）生活的「（ ）」である。

南博編・社会心理研究所『大正文化』P6

- ・ 大正時代には近代日本の青年期のイメージがある。
- ・ 明治のように（ ）なく、昭和戦前期ほどには窮屈ではない、束の間の自由と開放感の響きが、そこにはある。と同時に、どうにも頼りない危うさを感じられる。
- ・ いくらか軽薄でおしゃれな時代。

長山靖生『大帝没後 大正という時代を考える』P10

2. 大正時代の女性・男性

(1) 新しい女

1910年（明治43年）	坪内逍遙の講演 「近世劇に見えたる新しき女」
1912年（大正元年）	読売新聞「新しい女」連載開始（5月） 東京新聞「（ ）新しい女」連載開始（7月） 毎日新聞「新し（ ）女」連載開始（10月）
1913年（大正2年）	平塚らいてう「私は新しい女である」（『婦人公論』）

「昔の女は、忍んできた。今の女は、（ ）。」
（竹久夢二『恋愛秘語』）

(2) 大正期青年の5分類

① () 青年	安定志向 (真面目、空気を読んで人とぶつからない)
② () 青年	勝ち組 (成功の十中八九は金持ちになること)
③ () 青年	ひきこもり (社会の変化にうまく対処できない)
④ () 青年	おたく (刹那主義、虚無的思想)
⑤ () 青年	フリーター (自発性がなく周囲に同化)

徳富猪一郎 (蘇峰) 『大正の青年と帝国の前途』 P6~19

3. 社会の変化

(1) 都市の消費文化

<発展要因>

- ① サラリーマン (新中流層) の出現
- ② 百貨店というパラダイスの存在
- ③ 雑誌による大衆消費の促進 (特に女性誌)



「今日は帝劇 明日は三越」の広告コピーを作った浜田四郎のコメント

当時の千万人、今日は帝劇、明日は三越が彼等の渴望であつたに間違ひない。東三越西帝劇の時代である。両者共モダンな華麗なる殿堂だ。女中なり奥様なり、今日は帝劇明日は三越ならば極楽浄土の再来ともいへよう。従つて其反響も甚だ汎く、かくの如く成功せる広告文句は余り類例を見ない。

浜田四郎『百貨店一夕話』

初田亨『百貨店の誕生』より引用

<日本の百貨店>

- ・ 家族連れで百貨店を訪れる（買い物だけでなく一日の行楽）
- ・ 食堂が充実している
- ・ 屋上にも楽しさがある（庭園、遊園地、松坂屋は動物園まで作った）
- ・ 多種多様な催し（Ex. 音楽、美術、華道、写真、おもちゃ）

※バーゲンセールも開催！

<丸善 ～ 男性の消費文化>

- ・ 男性向け雑誌『^{がくとう}學鐙』

「明治30年（1897）3月に創刊し、現在まで続く我が国最古のPR誌」

（丸善ウェブサイトより）

- ・ 「^{とのがた}殿方の丸善、御婦人の三越」
- ・ 「あらゆる精神的なものを供給する丸善、あらゆる物質的なものを供給する三越」（寺田寅彦「丸善と三越」より）

お買物

明日は銀座でお買物

いろんな玩具を買ひませう。

「かあさんあたしにお人形」

「かあさん僕には狐の面」

「あたしは千代紙と色鉛筆」

「僕は筆立テツデイベア

ライオン空気銃

サーベル大砲・飛行船

汽車・電車タンク

軍艦・飛行機

馬競馬場お城

西瑞牙の王様……」

「そんなもの賣つてゐないわよ」

「僕、それよか王様になりたいなあ」

竹久夢二『歌時計』P一六八〜一七〇

(2) コミュニケーション文化産業

<発展要因>

- ①西洋テクノロジーの流入
- ②学校教育による読み能力の向上
- ③大戦景気による大衆の購買力の上昇



『婦人公論』創刊時（1916年）の綱領

高尚にして興味饒^{ゆた}かなる小説読物を満載して以て現代婦人の卑俗にして低級なる趣味を向上せしめ、穩健優雅なる実践的教養^{こすい}を鼓吹して以て突飛極端なる新思想と固陋頑迷^{ころうがんめい}なる旧思想とを極力排撃す。

酒井順子『百年の女『婦人公論』が見た大正、昭和、平成』より引用

『主婦之友』（1917年創刊）

「主婦の友」の創刊号から大正末期を通読してはっきりと目にうつるのは、この雑誌には（ ）と（ ）と（ ）という三本柱が一貫して立てられているということである。

南博編・社会心理研究所『大正文化』P335

『主婦之友』創刊号の主な特集記事

- ・ 小金を上手に遣う五つの秘訣
- ・ 安価で建てた便利な家
- ・ 神経痛を根治した経験
- ・ 必ず癒る胃腸病の家庭療法
- ・ 何と云って良人を呼ぶか
- ・ 夫から若き妻への注文二十ヶ条



4. タテ軸（歴史）とヨコ軸（国際情勢）

時代	主なできごと	景気
明治 27 年 (1894)	日英通商航海条約（領事裁判権の撤廃）	
明治 28 年 (1895)	日清戦争（1894）→ 下関条約	
明治 29 年 (1896)	軽工業における産業革命	
明治 30 年 (1897)		
明治 31 年 (1898)		
明治 32 年 (1899)		
明治 33 年 (1900)		
明治 34 年 (1901)		
明治 35 年 (1902)	日英同盟締結	
明治 36 年 (1903)		
明治 37 年 (1904)	日露戦争	軍需景気
明治 38 年 (1905)	ポーツマス条約	↓
明治 39 年 (1906)	重工業における産業革命	戦後不況
明治 40 年 (1907)		
明治 41 年 (1908)		
明治 42 年 (1909)		
明治 43 年 (1910)		
明治 44 年 (1911)	日米新通商航海条約（関税自主権の回復）	↓
大正 1 年 (1912)		
大正 2 年 (1913)		
大正 3 年 (1914)	第一次世界大戦	↓
大正 4 年 (1915)		大戦景気
大正 5 年 (1916)		↓
大正 6 年 (1917)	ロシア革命	
大正 7 年 (1918)	米騒動	
大正 8 年 (1919)	ベルサイユ条約	↓
大正 9 年 (1920)		

大正 10 年 (1921)	ワシントン会議 (四カ国条約)	戦後不況 ↓ 震災による 打撃と復興
大正 11 年 (1922)	ワシントン海軍軍縮条約	
大正 12 年 (1923)	関東大震災	
大正 13 年 (1924)		
大正 14 年 (1925)	普通選挙法	
昭和 1 年 (1926)		金融恐慌 昭和恐慌 ↓ 米英仏のブ ロック経済政策 に対抗
昭和 2 年 (1927)		
昭和 3 年 (1928)		
昭和 4 年 (1929)	世界恐慌	
昭和 5 年 (1930)	ロンドン海軍軍縮条約	
昭和 6 年 (1931)	満州事変	
昭和 7 年 (1932)	満州国建国、五・一五事件	
昭和 8 年 (1933)	国際連盟脱退	
昭和 9 年 (1934)		
昭和 10 年 (1935)		
昭和 11 年 (1936)	二・二六事件	

＜参考文献＞

- 青木宏一郎『大正ロマン 東京人の楽しみ』（中央公論新社）2005
- 石川桂子編『大正ロマン手帖』（河出書房新社）2009
- 石川桂子編『竹久夢二 恋の言葉』（河出書房新社）2004
- 加藤迪男編『大正 NEWS 年表』（日本地域社会研究所）2011
- 木村涼子『〈主婦〉の誕生』（吉川弘文館）2010
- 酒井順子『百年の女『婦人公論』が見た大正、昭和、平成』（中央公論新社）2018
- 佐藤卓己『「キング」の時代』（岩波書店）2002
- 下川耿史編『近代こども史年表 1868-1926 明治・大正編』（河出書房新社）2002
- 下川耿史編『明治・大正家庭史年表 1868-1925』（河出書房新社）2000
- 主婦の友社編『ニッポンの主婦 100年の食卓』（主婦の友社）2017
- 神野由紀『百貨店で〈趣味〉を買う』（吉川弘文館）2015
- 竹久夢二『歌時計』（ノーベル書房）1977
- 竹村民郎『大正文化 帝国のユートピア』（三元社）2004
- 徳富猪一郎（蘇峰）『大正の青年と帝国の前途』（時事通信社）1965
- 長山靖生『大帝没後』（新潮新書）2007
- 日本風俗史学会編『史料が語る 大正の東京 100話』（つくばね舎）2002
- 橋爪紳也『モダニズムのニッポン』（角川選書）2006
- 初田亨『百貨店の誕生』（三省堂）1993
- 速水融他『大正デモグラフィ 歴史人口学で見た狭間の時代』（文春新書）2004
- 平井正他『都市大衆文化の成立』（有斐閣選書）1983
- 毎日新聞社編『大正という時代「100年前」に日本の今を探る』（毎日新聞社）2012
- 南博編・社会心理研究所『大正文化』（勁草書房）1965
- 南博＋社会心理研究所編『日本人の生活文化事典』（勁草書房）1983
- 湯沢雍彦『大正期の家族問題』（ミネルヴァ書房）2010
- 鷲田清一『大正＝歴史の踊り場とは何か』（講談社選書メチエ）2018
- 『大正浪漫 100年の光と影』（徳間書店）2012
- 『ビジュアル 大正クロニクル』（世界文化社）2012
- 『目でみる大正時代[上][中][下]』（国書刊行会）1986